

ニカラグアにおける東洋医学教育ボランティア活動報告 2015

綱川 章

JICA シニアボランティア

職種：鍼灸マッサージ師

はじめに

中米、ニカラグアにおける第2回目の東洋医学教育のボランティア活動について報告する。

活動期間：2年間（2013年10月から2015年9月）

配属先：日本-ニカラグア東洋医学大学

同大学は、2004年首都マナグアに設立された東洋医学教育を行う5年制の単科大学。学生数は、約150名、彼らは西洋医学と東洋医学を5000時間以上学ぶ。卒業後は自然東洋医学士として、ニカラグアの保健・医療の場に従事する。

学長は、八巻晴夫氏、ニカラグアで28年間、鍼灸の治療活動を行っている。同大学は政府保健省と協定書を交わしており、また、WHO パンアメリカン支部とも相互に協力して活動している。

同大学は、社会的弱者支援の活動も行っている。特に視覚障害者の自立支援と乳がん患者への東洋医学的治療支援を行っている。

2009年から視覚障害者に指圧を教えて彼らの自立を支援している。初めは1年制の視覚障害者指圧講座を開設して、指圧師を養成していたが、2012年からは2年制となり、1年目は解剖・生理の理論と指圧実技を約300時間学び、2年目は約200時間、臨床実習を行う。

ボランティア活動の目的

- 1 視覚障害者の教育支援
- 2 大学の教育全般の支援
- 3 東洋医学の啓発活動

今回の活動では大学からJICAへの要請事項である視覚障害者の教育支援を優先し、大学生の授業は基本的に受け持たないことになった。

活動結果

- 1 視覚障害者の教育支援（4項目）

1. 指圧講座修了生支援

- (1) 指圧講座修了生の就労状況調査

2013年10月から11月、指圧講座の第1期から第3期までの修了生29名の就労状況を調査した。うち、9名については修了生の職場を訪問し、施術を受けて、助言・指導を行った。

就労状況は自宅開業9名、治療院勤務6名、治療院開設1名、ホテル勤務5名、指圧師と

して美容院勤務1名、廃業3名、ピアニストに転職1名、視覚障害者協会勤務1名、不明2名であった。

なお、美容院に勤務の形態は美容院内のスペースで指圧を行うもの。

来院患者数は自宅開業の場合、1週間に2人～4人、月に10人～15人であった。治療院勤務の場合、担当患者数は1日に5人～8人であった。

施術時間は50分から60分。

施術料金は自宅開業では、8ドル～10ドル、治療院勤務の場合は、おおむね3ドル～8ドル、ホテル勤務の場合は、15ドルであった。

手取りの収入は月に100ドル～800ドルで、100ドル程度の人が多かった。

レベルアップの研修として、あん摩及びリフレクソロジーの技術習得を希望するものがあった。

(2) レベルアップ研修：あん摩講座

2013年11月から2014年8月まで、週に1回、合計100時間のあん摩講座を開催した。指圧ベッドで、うつぶせ、あおむけ型の施術を中心に指導した。

指導の基本方針は、手から手へ技術を伝えることとし、模範施術、相互練習、施術を受けて評価・助言、技術完成への学習サイクルを実践した。

試験は2回実施し、修了の認定は60%の技術習得と80%以上の出席とした。

受講生は22名で、9名が修了し、大学の修了証書を発行した。

(3) レベルアップ研修：リフレクソロジー講座

2015年3月から8月まで、週に1回、合計60時間のリフレクソロジー講座を開催した。

足及び手のリフレクソロジーを、手拭い、マッサージオイル、エセンシャルオイルを用いて、英国式を主に、台湾式を参考に、下腿・前腕部分を含めて、各手技を指導した。

試験は4回実施し、修了認定は60%の技術習得と80%以上の出席とした。

受講生は21名で、14名が修了し、大学の修了証書を発行した。

(4) レベルアップ研修：症状別指圧応用講座

2015年4月から9月、症状別指圧応用講座、50時間を開催した。

20名が受講した。

内容は、指圧施術の基礎理論、健康保持増進の施術、高齢者・子供、妊婦への施術、ストレスに対する施術、腰痛、座骨神経痛、頸部痛、ひざの痛み、肩こり、五十肩、ベル麻痺、脳卒中後遺症、頭痛、食欲不振、便秘、不眠などに対する診察と施術方法。

リンパ系の解剖学、生理学、リンパマッサージ基礎、リンパ浮腫に対するリンパドレナージ（上肢、下肢）、関節モビリゼーション（頸椎、胸椎、腰椎、肩関節、肩甲骨、仙腸関節、股関節、ひざ関節）など。

(5) 治療院施術支援

2015年2月、内陸部の都市シウナで修了生が開業した指圧クリニックは、病院以外、市内でただ一つのクリニックということもあり、多くの患者が訪れ、患者の対応に苦慮して

いるとのことで、訪問支援を行った。

患者数が多く、中には、車いすや膝の手術後で松葉づえの患者もいて、ベッドサイドで施術の指導を行った。

(6) 治療院就職に向けた個別指導

2015年3月から4月、指圧師として自立できず、渋滞する交差点で車の間を縫って、物乞いをする修了生の治療院就職を目指して、施術者としてふさわしい態度、言葉遣い、身だしなみ及び指圧技術について再教育を行った。この教育期間中に本人が治療院へ就職を果たしたが、その後、指を負傷したため仕事ができなくなり、以後、連絡が取れなくなった。

(7) 市民市場へ出張店舗

マナグア市内市民市場にベッドを運び入れ、指圧を行う修了生を支援した。土曜日の午後になると、次々に患者が訪れ、指圧がニカラグア人に好まれていることが分かった。

2. 指圧講座現役生支援

指圧講座現役生には臨床、症状別指圧、指圧基礎を指導した。

現役2年生には臨床実習の場に立ち会い、患者への対応方法、診察方法、施術方法、リスク管理などを指導した。また、臨床実習と並行して、指圧応用講座30時間を開設し、腰痛、肩こり、五十肩、ひざの痛み、頭痛、顔面神経麻痺など、主な症状に対する診察、指圧の方法を指導した。

現役1年生には指圧講座に参加して、指圧基礎を指導した。

3. 指圧講座指導者支援

2014年2月から4月、指導者レベルアップ研修として30時間、主な症状に対する診察方法、指圧方法、解剖学、経穴および教授法を指導した。

4. 日本への留学希望者支援

2013年10月から2014年6月まで、国際視覚障害者援護協会を通じて日本の盲学校へ留学して東洋医学を学び、ニカラグアへ帰国後、指導的立場で働くことを希望する視覚障害者指圧講座の修了生2名に日本語点字・日本語を約300時間、指導した。

学習期間中1名が、日本大使館主催の日本語スピーチコンテストで第2位に入賞した。結果的には1名は本人都合により最終段階で日本への書類申請を辞退し、ニカラグアと日本の関係者を落胆させた。約束された将来の生活よりも、今の家族一緒の生活の方が大切というニカラグア人の考え方の前にプロジェクトがあえなく挫折することになった。

また、もう1名は、ランドルト環による視力測定で視力等級がニカラグアで行われている英国式の視力検査値と異なり等級が軽くなった結果、生活費需給の見込みが立たないことからやむなく申請を辞退した。

2 大学の教育全般の支援 (4項目)

1. あん摩実技関係

2011年に明治国際医療大学から提供してもらった教育課程を参考に、東洋医学科目を増やした大学の新しい教育課程への移行に伴って、あん摩実技の計画、術式を改編し、新しく2名の指導者を養成した。

2. 視覚障害者学部への設立への支援

2014年7月、大学の新しい学部として計画されている視覚障害者が5年間東洋医学を学ぶ視覚障害者学部について検討するため、学内の新学部設立準備委員会や理事会で視覚障害者教育について講演した。視覚障害者の特徴とそれを生かした鍼灸・指圧の職業、教育を提供する側に求められる施設、設備などについて説明した。また、大学が目標としている筑波技術大学の教育について説明した。視覚障害者学部の教育課程を検討するため、筑波技術大学から教育課程を提供してもらった。

2015年9月、全教職員を対象に視覚障害者理解研修会を開催した。

視覚障害者の特徴、心理、眼科疾患と見え方の特徴、教科指導上の配慮事項、白杖、点字、情報補償機器類、緊急時の対応方法について説明し、理解を図った。また、視覚障害者への声のかけ方、手引き歩行について、実技指導を行った。

3. 海外研修 世界鍼灸学会で発表

2014年11月、米国ヒューストンで開催された世界鍼灸学会で大学2年生に対するWHO/WPRO標準経穴の指導と指導者養成を行った教育実践について発表し、ニカラグアにおける鍼灸教育を世界に紹介した。

また、帰国後5回にわたり、報告会を開き学生および教職員に研修成果を報告し、学生の学習意欲の向上を図った。

4. 大学生への教育リンパ浮腫に対するリンパドレナージ

大学がオルティス・グルディアン財団病院と乳がん患者への東洋医学による治療支援を行うという相互協力の推進のため、大学4、5年生約60名に乳がん患者のリンパ浮腫に対するリンパドレナージ法の基礎理論、実習、患者への助言方法を指導した。

手技の掲示物や実技の場面を、メモを取る代わりに携帯電話のカメラで撮影する学生もいて驚くとともに時代の変化を感じた。

3 東洋医学啓発活動（6項目）

1. 日本文化紹介「ジャパン・フェスティバル」で指圧・あん摩の実演

2015年2月および7月、日本とニカラグアの国交80周年を記念して日本大使館が主催したジャパン・フェスティバルで、大学生および視覚障害者指圧講座の修了生と共に来場者に指圧施術を行った。施術を受けたいという希望者が列をなした。

2. テレビ出演で東洋医学広報活動

2014年3月、全国テレビ「カナル・ドス」に出演して視覚障害者指圧講座の案内を行った。

同年 8 月、同テレビ局に出演して視覚障害者学部新設に向けての説明を行った。

同年 12 月、同テレビ局に出演して指圧の模範施術を行った。

同年 12 月、全国テレビ「カナル・セイス」に出演して指圧の適応疾患、症状について説明を行った。

2015 年 1 月、全国テレビ「カナル・ドセ」に出演し、視覚障害者への指圧による職業教育を取り上げた特集番組の中で視覚障害者への指圧あん摩の教育方法、就労状況、職業教育の意義についてのインタビューに答えた。

3. ショッピングモールで指圧実演

大学生および視覚障害者指圧講座の修了生と共にショッピングモールで大学が定期的に開催する「東洋医学フェア」に参加して買い物客に指圧やあん摩の施術を行った。

4. 特別支援学校を訪問

マナグア市内にある初等教育機関「メラニアモラレス特別支援学校」を訪問し、校長と面会。指圧講座の教育経験から小児期にできるだけ運動機能を高めておくことが将来指圧を学ぶ際に有益なことを説いた。また、職員に指圧やあん摩を施し啓発活動を行った。

5. 障害児施設を訪問

視覚障害者指圧講座の修了生と共に「テソロ・デ・ディオス養護施設」を訪問し、職員及び保護者に指圧やあん摩を行った。障害児の介護で腰を痛めている人が多かった。

6. 自宅での施術

自宅で地域の人々に鍼灸あん摩マッサージ指圧施術を施して、東洋医学の啓発活動を行った。また、状況によって、施術後の健康維持のために、施術者として、指圧講座の修了生を紹介した。

患者数は延べ約 200 名。国籍は、ニカラグア、ベネズエラ、グアテマラ、アルゼンチン、ドイツ、アメリカ、日本であった。

考察

1 指圧講座の教育

第 1 期から第 5 期までの指圧講座の修了生は合計 44 名で、ほとんどの人が指圧を職業にしている、東洋医学大学は彼らの自立に大きく貢献している。臨床実習や各種の東洋医学啓発活動の経験からニカラグアの人々が東洋医学に好感を持ち期待しているのが分かる。指圧・あん摩については健康保持増進の目的よりも各自が抱えている疾患の治療や症状の改善など過大な効果を期待している感じさえ伺える。こうした状況から現行の指圧講座の教育を向上させるため、症状別指圧講座の開設と臨床実習で指導者を配置するように大学に要望した。

2 指圧とあん摩技術の関係

ニカラグアでは指圧よりもあん摩は高度な技術であり、難しいように思われている。指圧に比べるとあん摩には揉捏と曲手の主義があり、これらの手技の習熟にかなりの時間を

要する。揉捏は漸増圧と漸減圧の状態に加えて、一定のゆっくりしたリズムの動きが加わる。

体表面から見れば垂直方向の圧力変化と水平方向の滑らかな運動、そして安定したリズムの体重の移動が組み合わさって実現している。東洋医学大学では結果的に大学生も視覚障害者指圧講座の修了生も指圧を学んだ後にあん摩を学んだ。指圧の学習で体重圧のかけ方と体重移動のリズムを習得した者にとって、あん摩の技術習得は好都合だったと思われる。

3 親指外転の個人差と揉捏

手の親指と示指の開く角度、親指外転の角度が、個人差が見られた。この親指外転の角度が大きい、つまり親指腹と四指との対立関係がよくできる学生は、親指揉捏法を習熟しやすかった。一方、親指外転の角度が小さく、つまり、親指腹と四指との対立の形態が十分でない学生は親指揉捏がぎこちなく、やりづらいものになった。そこで可能な限り両方親指揉捏を行うという方法で、この問題を解決した。

4 曲手などの手技

曲手の習得には毎回、授業の終わりに 5 分間の練習をした結果、基礎的な技術は習得できた。

ニカラグアでは、こうした曲手の類、突手、挫き手、雷手など、驚きをもって受け止められ、難しい印象を与えてしまうが、練習を繰り返すための工夫をしてやり、上達してくると、彼らの喜びも大きい。

また、合掌打、拍打など音の出る主義は好まれ、チャチャチャチャ・パカパカ・ポンポンと必要以上に長くやっている。その音を聞くと何か東洋とラテンの文化的な違いを感じた。

5 職場開拓の必要性

ニカラグアでは 1 日 2 ドル以下で生活している人が国民の約半数と言われる。こうした状況で指圧講座の修了生はほとんどがこれを上回る生活状況であったので、少し安心した。しかし、自宅開業者の収入は少ない。一方、治療院に勤めている修了生は、かなりの収入を得ている。これからは、自宅開業者が勤められる治療院を開拓する必要がある。

6 法廷雇用率

ニカラグアの障害者に関する法律「法 763 号」によれば従業員が 50 人以上の会社または企業は全従業員の 2%以上の障害者を雇用する義務があると規定されている。現在は実現していないが、将来この規定を生かして職場開拓の支援を進める必要がある。

7 視覚障害者学部を設立する意義

現在、東洋医学大学では政府の大学設置の方針に従って学部を増設する過程にある。その一つに視覚障害者学部を新設する予定がある。これは、視覚障害者が、鍼灸、指圧、あん摩などの東洋医学を 5 年間学ぶものである。実現すれば、ニカラグアの視覚障害者ばかりでなく周辺国の視覚障害者にとっても東洋医学を学ぶ機会が比較的身近になり、同学部の設立の意義は大きい。

まとめ

- 1 視覚障害者の指圧・あん摩の職業教育は大きな意義があり今後も継続させる必要がある。
- 2 視覚障害者学部設立に向けて一連の支援を行ってきたので、同学部が円滑に開設されることを望む。
- 3 今後は視覚障害者が働く治療院や企業など職場開拓の支援が必要となる。